

1996年(平成8年) 5月
第4号

きぼう

この子等の幸せを考える親の会

事務局

〒494 尾西市富田字漆畑16番地

TEL/FAX: 0586-61-6055

編集責任者: 広報・研修事業部

第16回 この子等の幸せを 考える親の会総会開かれる

去る4月29日のみどりの日に、尾西市文化会館を会場に、会員関係者90名の参加の下、第16回この子等の幸せを考える親の会の総会を盛会に行うことができました。これも会員の皆様方のご協力と行政当局のご指導によるものであり、厚く御礼申し上げます。

ご来賓の森市長さん、顧問の岡田先生より生活施設に関し心あたたまってお話しがありました。これも会員の皆様のひたむきなご努力のたまものと存じます。

総会の後で、交流会が催されました。会員各自の日ごろ考えていること、経験、悩み事、希望等が率直に話題となり、話が進展致しました。このことが、親の会の基本的活動理念であります。

(会長 小塚 清)



去る4月29日、第十六回総会が開かれる。
尾西市文化会館にて。

相互交流会の様子

第16回この子等の幸せを考える親の会の総会の午後の部では、地区別のグループに分かれ、「この子と私のあゆみ」をテーマに相互交流会がもたれました。予想どおり時間不足ではありましたが、切実な事柄が幾つも表明されています。継続して話を進めていけることを希望して、ここに、グループの代表の方よりまとめを頂きましたので、ご紹介したいと思います。



第16回総会、
議事が進められる。

① 私達のグループ(尾西市A)では、参加された会員の皆さん各自より自己紹介として、障害をもつ子供さんとの生活史、現況等を披瀝して頂き、そこから今一番問題(関心)とされている話題を拾って、皆で意見を出し合いました。会員さんご自身の人生そのものがすべて違うように、子供さんの年代や生活史も千差万別で、非常に幅の広い内容となりました。具体的な中身は紙面の都合上割愛させて頂きますが、子供さんの幼いころから今日に至るまでの成長の刻印

としての歴史の中には、思わずほほ笑んでしまうようなエピソード、他人事とは思えないようなご苦勞が偲ばれるエピソード、心揺さぶられるような敬虔な思いのするエピソード等それぞれの会員さんの溢れるほどのこの子との思いの中から選択された貴重なものを紹介して下さいました。

ところで、親の会で今一番関心の的となっている入所施設については、会員さんの殆どは、自分達親が元気なうちはこの子の面倒は自分達が見るが、それがやれなくなる時が必ずやって来るのだから、その時に入所施設があれば、この子も私も本当に安気でいられる、との意見でした。ただし、入所施設が出来たとき、今は特にその必要がないのにどうしても入所させなければならぬ、というのではなく、適時必要に応じて預かって欲しい。

入所施設の運営上、そこら辺の臨機応変な対応はなかなか難しいことでしょうけれども、これからの課題として考えてゆかなければならないと痛感いたしました。

最後に、今回の交流会は自己紹介の部分だけで殆どの時間を取られてしまい、もう少し突っ込んだ論議が十分できなかったのが残念でしたが、参加された会員さんはある程度お互いの家庭のことなどの情報交換ができ、今までにない有意義な会合でした。

これからも機会があれば、このような交流会を開いて頂きたいと思います。



② 私達のグループ（尾西市B）は、11名の参加で自己紹介を中心に交流会をもちました。期待と不安の中で参加された方も多かったのですが、皆さんそれぞれ積極的に話し合いに参加して下さい、時間が少し足りないぐらいで、会員同志の交流を深められる場になったと思います。

自己紹介を中心に、それぞれの家庭での子供さんの生活の様子や家庭状況等を話し合っていました。その中で、子供さんを取り巻く家庭の状況が様々であり、現在深刻な問題を抱えている会員さんがいることも分かりました。さらに、ご兄弟（姉妹）の結婚、出産や両親の病気等、近い将来子供さんの生活環境が著しく変化していくことも他人事ではないことが分かりました。

この交流会を通してご本人の将来を考えると、家族の関わり方がこれまで以上に、より一層大切になって行くことを学んだように思いました。

また、家族の力だけでは解決出来ないこともたくさんあるように思いました。この交流会が一回だけに終わらずに、「家族のそれぞれの援助のあり方」、「会員同志の助け合い（相互扶助）」、家庭・地域施設の共通の接点としての親の会の果たす役割」等、いくつかの共通のテーマによる交流会（学習会）を継続して開催していただけたらと願わずにおれません。



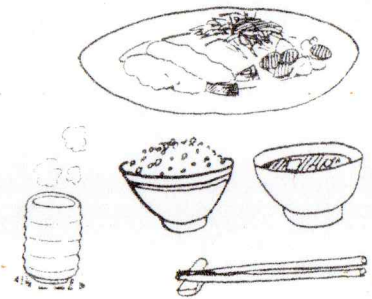
交流会：話し合いのまとめが発表される

③ 私達のグループ（一宮市 - 木曾川町）は、11名のメンバーで互いの顔もよく見え、声もよく聞こえました。1度隣のグループの人より、もう少し小さな声で…と耳打ちされたほどでした。

「この子とわたしのあゆみ」をテーマに自己紹介と同時に一言話して頂きましたが、ひとまわりしたところで、ちょうど時間となってしまい、まとめることはできませんでした。話の中身は、苦労してきたこと、自立への親子のとりくみ、生活パターンを尊重してきたこと、興味のあることからはじめ大事にしてきたこと、根気よく教えること、進路や転居など人生の節目のこと、これからの心配や期待することなどが、ポロポロ出始めたところでした。それらの幾つかを紹介したいと思います。

○合宿（檜の木作業所の行事）が大好き。

1週間前位から楽しみにしている。米を自分でといたり、お茶を沸かしたり、てぬぐいを片手でしぼる。ハシを配る。ごみ集めをしている。自分の意志が伝わらんとかわいそう。もうちょっとしゃべるようになったらいいなあ。生活施設ができるといいなあ。



○小さいころは大変だった。振り回わさればなし。この歳になってようやく私の時間がもてるようになった。おばあちゃんにきてもらわなくてもいいようになった。リンゴむきもさせた。リンゴが血で真っ赤になった。



○理解のある会社へ入社している。ホッとしている。樫の木作業所がなつかしい。友達がひとりもない。これまで2度転居した。苦勞して来た。通勤は苦勞もあったが、自信がついた。今では歯医者にもひとりで行くようになった。

○休み（休日）が心配。ひとりで出掛けるのが心配。お金を使うことをおぼえた。自分で服を着ている。歯みがき粉も自分で買う。いつまでもかかわっておれんで、死んでも死に切れない。

○発音できるかなーとカラオケによく行く。親子が遊んでいるように見えた。しゃべろうとする気持ちが出てきた、言葉にならなくても。



④ 私達（祖父江町・稲沢市・平和町）のグループは、総勢21名と多く、自己紹介で時間を費やしてしまいました。その中でも個人個人が家庭の中で抱えている問題や、これからの親の会に期待することなど、様々な意見を出してみえました。

特にこの地区には、両親と子供さんの3人家族という家庭が4組あ

りました。やはり、親が病気・怪我になった時などの緊急時の子供さんの一時預かりについて、あるいは両親に不幸があった時の生活についての不安が、各家庭より出されました。両親がご高齢な保護者の方は、せっぱつまったことだと感じました。

一昨年より、この地区で入所タイプの施設をもとうという意志が、親の会中心に持ち上がり、活動が進められるようになってきましたのも、上記のような理由からです。しかし、意思統一はできましたが、何年をめどにとか、資金をどうするのかとか、いつ地方自治体に陳情に行くのかとか、具体的な目標が見えず、期待だけを胸膨らませてもっている状態であるという反省点をあげられる方もありました。

土地確保の問題などなどまだ確定していないことがいくつもある状態で、そういう目標も…という意見も出ましたが、だからこそ、親の会の会員が現状（資金のこと、土地のこと、自治体との協力のことなど）をよく知り、一致協力して改めて明確な目標をもっていきたいという意見が出され、まとまりました。



交流会：会員の意見に熱心に聴き入る

朝日農協バザーに参加して

寒かった冬も過ぎ、早春の候となりました。その3月23日朝日農協バザーに参加させていただきました。

当日は奥田先生の運転される車にお世話になりました。しかし、春とはいえ肌寒い風が吹きつけてお天気はいまひとつ。場所も目につきにくいところでした。

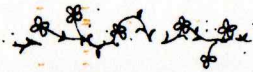
お客様の方はやはりちらほらでした。しかし、「いつも榎の木の商品を買っていますよ」と言って下さったお客様がありました。その方は、刺し子の袋物を丹念に見て、その中の1枚を買われたのです。又「良く出来ているね」と言って、手に取り品定めをして買って下さったお客様。商品を中にして交わす笑顔がありました。

風はますます強くなってきました。それなのに、私の心はあたたかでした。先生をはじめ関係者の皆様、本当に良い日をありがとうございました。

今日のこのことを心の糧にして、これからも明るく歩んで行きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



1996年3月23日・24日、
朝日農協バザー開かれる。



所感 一子供の目線をもつこと

桜並木の美しい街の尾西、特に二ツ屋の桜は私達の憩いの場所です。私の幸福感の背景には溢れ咲く桜の花がありました。その桜も葉桜に、又やがてさわやかな新緑もすぐそこに。しかし近年はどこへ行っても車の排気ガスで白っぽく色褪せた感があります。

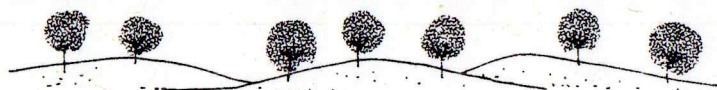
世の中日々に変わりつつありますが最近の所感を思いのままに書かせていただきます。教育論でよく子供の目線を持つことが大切と言われます。ある友人が語ってくれましたが、子供がデパート等でおねだりして床に座り込み泣き止まない。私もこれは経験しておりますが、この場合どうするか。こんな時いくら叱っても無駄である。最良の方法は自分も一緒に座り込んでしまうことである。すると子供は、キョトンとして泣き止んでしまう。それから静かに論じて行けば意外に素直に言うことを聞くものです…と。

この方法がいつも通用するとは限らないでしょうが、しかし、子供と心を通わせようという親心から出たその人なりの知恵であることは間違いなく、同じ目線でという知識が見事に実践的な知恵に生かされています。子供の人格、知恵を磨き、子供が幸福な人生を送ることが出来る力をつけさせるための、親としての教育。皆様はご存知のことと思います。

いかに楽しく人生を生き、遊楽して人生を終末に持って行くか、私達に課せられた事です。それぞれの国で精一杯生きている人達と、応援する人達がいて、初めて人間らしい社会が出来ると思います。

私達保護者も、だんだん老人の仲間入りをする人が増えて来ます。いろいろな点で心配多い世の中ですが、お互いに許し合い、リラックスしながら、人を阻害せず、共に生きることを喜び、また障害者の姿に私達が生き方を学びつつ、希望を持って連帯の輪を広げて行きたい。

私の好きな言葉に、「森羅万象我以外皆師なり」です。乱筆乱文にて失礼します。

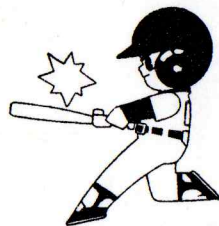


野球の季節

また今年も、4月に入り野球の季節になり待ちに待った時が来た。もう頭の中は野球だらけの我が家の長男、なぜか私までウキウキしてきます。勝った時はとても気分が良くニヤニヤ、負けた時はもうブツブツいつまでも続く。

勝負の世界は当たり前のことなのに。負け試合は見たくもないのに、息子は負けていても最後まで見る悪いくせ。私ももう見るとはなしに見てしまって、これまたおこれてくるので困ったものだ。テレビを切ってくれればいいのに切ってくれないのでムッカムッカ。今からこれでは長いペナントレース息子とケンカになるのが目に見えて来るようで不安になる。

でも野球が好きだ。私も息子も。外野の家族はそれを笑って見ているだけ。それでも2人は楽しい。





共に生きたい

あいにくの雨ですっかり桜の花もしよげかえています。今日は雨の中の通院でした。この前の検査の結果を聞いて、ほっと胸をなでおろし帰宅したのでした。元気に檜の木から帰って来る子供のために夕食の準備を整えることが出来る。

こんな当たり前のことがありがたく身にしみるのです。2度も3度も子供と対立して、というか波長が合わず先生に相談したあの日のこと。本当に今は穏やかな時が巡ってきて、良い関係で夜を過ごせる、というより子供と1時間でも1日でも共に生きたいと願うのです。こういった気持ちが持てるまでにはどれほど先生のお力添えがあったか知れません。

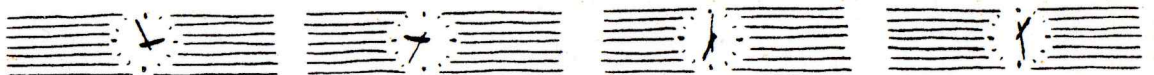
そしてまた親が共に生きる時間は健康管理や前向きな姿勢で延ばすことも可能ではないでしょうか。

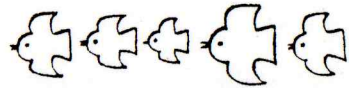
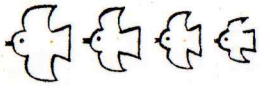
春はいっせいに植物たちも活動し始めています。道端の草花たち、我が家の小さな花壇の植物たち、自然の恵みをいっぱいを受けて力いっぱい元気なところをみせつけてくれます。

檜の木の皆人も、そしてお父さんお母さん達も、いっぱい手を広げて、大きな大きな希望に向かって歩いて行きませんか。

たった1度の人生ですもの。

今日1日を大切に、そして後悔のないように。





わたしの思い

自分の子を可愛いと思ったことがありますか？
 何でこんな子供にめぐまれたのかとくやしがあったが…

ある日 本を読んでいて
 「すべてのことは母親にある」と書いてあった
 お腹にできたときの心

「生活の中にあって感謝したことがあるか？」
 「人の子として親の思いを考えたことがあるか？」
 と書いてあったとき
 親に心配ばかりかけていたことを思い出して…

それからは他人の子でなく 自分の生んだ子供を
 可愛いがってやろうと思ったとき
 人の話に耳を向けるようになった

でも今だに 昔にくんだ分のお返しはもらうこともありますが
 子供の心もおだやかなときは笑ってくれ お菓子もちぎってくれます

障害者で何も知らないのではなく
 私の方が教えてなかったと反省です

これからは外へ出して早く友人をつくってくれることを願います

水遊びが好きで これからのプール遊びを楽しみにまっています





すべての親の前向きな姿と 明るい顔を

この子等の幸せを考える親の会が出来てから、
ひとりだけで悩んでいるのではなく、多くの人と力を合わせて、
皆さんと変わりなく社会生活ができるんだと、
そして障害者もそれなりに一生懸命に社会人として生きているんだと、
その姿をたくさんの人に見てもらい、
そしてまた多くの人助けを借りていることも知って、
この子等のために 親として出来る限り助けてあげるために、
どんなことも手助けしてあげたいと思う。

自分の子は自分でと思う反面、
一人で解決出来ないことはたくさんあり、
そのために仲間作りに力を貸して下さい。
みんな楽しく生きて行くためには、
みんなの協力がなければ何も出来ません。
よろしくお願い致します。

我が子が生まれ、病気になり、暗くなる親の心が また
子供に良くないこと。
すべての親の前向きな姿と明るい顔が どのように大切かを知っていな
がらどうしようもない気持ちと悩みをもつわたしたち、
親の会で仲間作りをしてみませんか。

仲間がいるとは どのように心強いことかを考えるのにチャンスです。
これから多くの人と助け合って 楽しくやりましょう。



句 歌

ゆ

青き踏む子等の唄声揺るゝ徑

とき

すみれ

はゝの庭刻忘れじと童咲く

土手焼きしあとに真白き鶯一羽

俳句が寄せられました。「御笑覧下さい」とのこと。



編集後記

ここに、会報誌4号の発行に至りました。今回は、「この子と私のあゆみ」をテーマの交流会の様子と日ごろの思いを載せることができ、また一步中身の濃いものにすることができたと思っています。ありがとうございました。

引き続き、会員、関係者皆様よる投稿を期待しております。
《編集部》

句歌

ゆ

青き踏む子等の唄声揺るゝ徑

とき

すみれ

はゝの庭刻忘れじと童咲く

土手焼きしあとに真白き鷺一羽

俳句が寄せられました。「御笑覧下さい」とのこと。



編集後記

ここに、会報誌4号の発行に至りました。今回は、「この子と私のあゆみ」をテーマの交流会の様子と日ごろの思いを載せることができ、また一步中身の濃いものにすることができたと思っています。ありがとうございました。

引き続き、会員、関係者皆様よる投稿を期待しております。
《編集部》